



# 楽々亭通信

第13号  
令和3年9月1日号

発行:NPO法人没イチの会・京都

## 8月、楽々亭十二回を 開催いたしました

『お彼岸』

本願寺派布教使

安堂芳雅

夕食の後、一時間ほど歩くようになって二週間が経ちました。

“三日坊主”も十回続けば一カ月!”と、とりあえず運動靴を履いて出ると、秋の虫が遠慮がちなにいて、夏が短かったことに気付かされます。

皆さんこんにちは、安堂です。

「お盆」がすぎ、「お彼岸」がやってきました。

春分の日と秋分の日を「お中日」として、その前三日間、後三日間の七日間が「お彼岸」です。



◆お経さまには「お浄土は西にある」と説かれています。

ハワイの開教使だった方が、こんな仏教讃歌を紹介しておられました。

「彼岸」

彼岸の中日、お日さまはちょうど真西のお浄土にお入りなされるお話を今日はお寺で聞きました

お日さまが真西に沈む春分・秋分の日を中心とした「お彼岸」は、西方浄土を想い、亡くなった先祖に想いをはせる、日本独自の仏教行事で、多くのご寺院で彼岸会法要が勤まります。きつとお寺で「西の彼方のお浄土」のお説教があったのでしょ

う。

しかし、科学が進んだ今の時代、「西方浄土」の受けとりはなかなか難しいようです。

西の彼方にお浄土があると聞いても、

●地球は丸いんだから西へ西へと進んでいけば、ここに返ってくるじゃないか。とか、

●地球はグルグル回っていて、西の方向は常に変わるじゃないか。と言われるです。

実は、お浄土のほんとうのすがたは、阿弥陀さまの限りなき光明の世界で、私たち凡夫には「不可称・不可説・不可思議」と言われます。

つまりお浄土は、「私たちが言葉で言い表すことも、心に思うこともできない」世界なのです。だとすると、私たちはお浄土のことをまったく知

ることができません。

ですから阿弥陀さまはあえて、夕日はどこから見ても西に沈む。その夕日の向こう西の彼方に「お浄土」があると、**方向を定めて下さったのです。**

山口県のお坊さまがお葬式やご法事で、このようなお話をよくされていたそうです。

(註)語尾を少し変えてご紹介しています

「お母さん、亡くなったなあ。」

お母さんはどこへ行ったんかなあ?

お母さんは「西方のお浄土」へ行ったんや。

大きい兄ちゃんは東京へ帰る。二番目の兄ちゃんは広島へ帰る

東京では、日暮れには西へお日さまが入る。

広島でも、日暮れには西へお日さまが入る。

お日さまが入る。

淋しいとき、田舎の父ちゃんもさぞかし淋しがるうと思つたら、

田舎の父ちゃんもこの夕日を見ていると思えばええ。

兄ちゃんも父ちゃんも、処(場所)は違ふけれど、あのお日さまが入った先に、お母ちゃんも生まれていったんだと思わせてもらう。」

「まことに、親切なお慈悲じゃありませんか。」と、話されていたそうです。

◆お浄土に阿弥陀さまといっしょにかえる。

お日さまが入った先とは、彼岸(お浄土)ですが、それは「無量の光の世界」ですから、私たち凡夫にはわかるうはずのない世界です

その「わからない私たち」に阿弥陀さまは、この世のいのちを終えたあなた

のために「お浄土」という世界を  
建立しました。あなたの目には  
見ることができないだろうが、  
どうかお日さまが沈んでいく場  
所、そこに「お浄土」があると思  
って、安心しておくれ。と方向を  
定めてくださった、ご親切です。  
「お浄土？ いったいどこにあ  
るんですか？」と自分の目や頭  
で確かめようとする私たちだけ  
から、「あそこにあるんだよ」と方  
向を定めることによって間違  
いのないお浄土の存在を教え安  
させようとしたのです。

そして、お浄土へは、この阿弥  
陀が連れて行くから、心配はい  
らないよ。また、そこでは懐かし  
い人たちがあなたを待っていて  
いるんだから、楽しみにしてい  
ようよ。と、お浄土のことを  
「わからない私たち」に初めて  
里に我が子連れて帰る母親の  
ように安心しておけばいいよ、  
心配はいらないよ、楽しみだね  
と、優しく言い続けて下さって  
いるのです。

今年のお中日は九月二十三日  
です。真西に沈むお日さまに手  
を合わせ、懐かしい人が待って

くれているお浄土を想う尊い時  
間をいただいで下さい。



### 松竹のプロデューサーとして

#### その5

私が東京本社に役員として京  
都より呼ばれました。

住居は隅田川沿いの高いビル  
の13階。30階以上は日本航  
空のスイートルームの宿舎になっ  
ており、直ちに友人になりました。  
又同じ階に割合有名な女性  
マネージャーが住んでおりまし  
た。必殺仕事人、鬼平とヒット商  
品を作った小生に多くの女優た  
ちが訪問してきました。それぞ  
れのマネージャーに頼んで、何と  
か処理してもらいました。

それ以外に松竹少女歌劇団  
(SNG)の生徒たちが職を求めて

訪ねてきました。

一つ気を許せば小生の身が破  
滅しそうな毎日でした。(少しは  
許したかも)

夜は宴会も早めに切り上げて  
自宅に帰ってきましたが、ペテラ  
ンの女優達もよなよな訪ねて来  
ました。「食事に行きましょう」  
とか種々のお誘いがあり大変で  
した。

会社ではテレビ・ビデオ・映画  
等映像関係を全部担当しており  
ました。結果ヒット作品が多く製  
作出来、天井を向いて歩いてい  
たと思えます。

しかし、よる九時になると京都  
の家内から毎夜電話が入り、その  
度にどきりとした状態になっ  
ておりました。私の住んでいるマン  
ションはプールが有り時間の許  
す限り泳いでいました。マンショ  
ンに住んで居られた奥様たちも  
泳いでおられ自然とお友達にな  
りました。

小生の休日には奥様達が各自  
お菓子を持って小生の部屋に遊  
びに来られました、

こうしたことが一番無難だと  
思っておりますがそうではな

かったのです。面白いこと・言  
えないようなこととかは、次回  
で……

櫻井洋三



### 楽々亭 第13回 9月の予定

9月の楽々亭は緊急事態宣言の  
発出を受け、休会といたします。

開催を楽しみにされていた方々  
には申し訳ありません。

### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都  
住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701  
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328  
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しており  
ます。身の回りの出来事や体験談など、何でも  
結構です。楽しかったこと、つらい思いをした  
ことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行き  
たいと考えております。